

カリキュラム

機構施設名：鳥取職業能力開発促進センター
実施機関名：学校法人産業能率大学

(A)IT理解	ムダを発見するための業務とデータの流の見える化
業務のIT化	

コースのねらい	ITで用いられている技法を用いて、業務プロセスとデータの流を图示し、業務の無駄を発見し業務改善に活用できることを理解する。
---------	---

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間(H)
	1	1. 業務とデータの見える化とは	(1)業務改善の必要性 仕事のQCD(品質・コスト・納期)の維持向上の必要性を確認し、継続的な業務改善が欠かせないことを説明する。また、業務のムダに関する着眼点も解説する。 (2)業務上の情報に関する問題 身近な業務上の「情報」に関する問題点をグループで話し合い、まとめを行う。受講者の現状認識度合いを確認し、情報の改善の必要性を伝える。 (3)業務とデータの見える化の必要性 PC自動化ソフト(RPA)の事例に触れる。自動化の前提として、業務とデータの見える化が必要であることを解説する。 (4)見える化による業務改善事例 営業や工場における情報の問題の事例を説明する。単に、改善結果のみを伝えるのではなく、見える化によってどのように改善するか、受講者に検討してもらいながら進めていく。	4.0
	2	2. 業務とデータの可視化技法	(1)業務フロー図の書き方 業務フロー図の基本的な書き方を説明する。JISやUML、事務工程分析図表といった、様々な表し方があることも解説する。 (2)業務フローの作成演習 自職場における特定の業務を取り上げ、業務フロー図を作成する演習を行う。作成結果は、ペア・トリオで共有し、業務の進め方が他者に理解できるかを確認する。	2.0
合計時間				6.0

カリキュラム作成のポイント
講師からの一方的な講義ではなく、個人ワーク、グループワーク等を取り入れた実務的な研修として研修カリキュラムを組み立てました。また、オープン形式ということですので、製造業やサービス業等の業種業態を問わない事例やケースを組み込んでいます。

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア(受講者用)	●機器・ソフトウェア(講師用・その他) プロジェクタ、スクリーン、ホワイトボード
●使用するテキスト 産業能率大学作成オリジナルテキスト	●その他

利用事業主に用意を求める機器等	備考